

防災セルフチェックを活用される皆様へ

- この防災セルフチェックは、各学校で作られている防災マニュアルや防災計画をよりよく改善していくためのツールとして御活用ください。
- 学校の教育活動の様々な場面を想定したチェックシートを用意しましたので、必要なシートを適宜選び御活用ください。
- チェックシートの内容は、各学校が自ら改善点を見出していくためのものです。各項目の内容を達成目標とするのではなく、学校の状況に応じて、適切な達成目標を検討すると良いでしょう。

※チェックシートの使い方

安全確保のための児童生徒への指導		解説
	児童生徒は、揺れが収まるまで、どこで、どのように身の安全を図ればよいかを学習（理解）している。	22頁
	児童生徒は、揺れが収まってから、どのような行動すればよいかを学習（理解）している。	22頁

○△×、レ点など、自校の進捗状況などがわかるようにチェック方法を工夫しながら確認すると良いでしょう。

チェック項目の考え方や、防災計画や訓練への活かし方を説明した頁を示しています。チェック後は、この頁でさらに確認をしましょう。

チェックシート

A thick yellow horizontal line spans the width of the page, ending in a large yellow circle on the right side.

1 登下校中(自力通学)に地震が発生した場合に備えて



チェックのポイント

自力通学をしている児童生徒が登下校しているときに、地震が発生した場合への対応が準備できているか、確認しましょう。

登下校中に地震が発生した場合、学校は児童生徒の登下校の状況を把握することが困難であることが考えられます。

学校から離れている児童生徒を守るための対策が取れているか、確認しましょう。

Check

安全確保のための児童生徒への事前指導		解説
<input type="checkbox"/>	1 児童生徒は、揺れが収まるまで、どこで、どのように身の安全を図れば良いか学習（理解）している。	22 頁
<input type="checkbox"/>	2 児童生徒は、揺れが収まってから、どのように行動すれば良いか学習（理解）している。	22 頁

Check

安全確保のための職員の対応		解説
<input type="checkbox"/>	3 防災計画に基づき、居合わせた少数の職員で対策本部を設置し、何をどのようにするか、対応方法を全職員が理解している。	23 頁
<input type="checkbox"/>	4 自力通学の児童生徒について、何時の時点でどの辺にいるか（移動しているか）、登下校中の時間別の現在地について把握している。	23 頁
<input type="checkbox"/>	5 児童生徒の現在地に職員を派遣することを想定し、対応策を職員間で共通理解している。	23 頁

Check

保護者との確認		解説
<input type="checkbox"/>	6 登下校中に地震が発生した場合、児童生徒の安全を確保するために、学校と家庭とがそれぞれがどう動くかを確認している。	24 頁

Check

地域への協力依頼		解説
<input type="checkbox"/>	7 通学経路周辺の公共施設・機関（可能な場合は地域の住民）に対して、非常時の当該児童生徒への保護・支援について協力を依頼している。	24 頁

2

スクールバス運行中に地震が発生した場合に備えて



チェックのポイント

スクールバス運行中に地震が発生した場合に備え、運転手と介助員の 2 名による安全な初期対応と、素早い救援体制について確認しましょう。

Check

安全確保のための児童生徒への指導		解説
1	児童生徒は、揺れが収まるまで、バスの中でどのように身の安全を図れば良いか学習（理解）している。	25 頁

Check

安全確保のための学校、職員の対応		解説
2	運転手と介助員の 2 名しかいない状況で、考えられるリスクと可能な対応について検討している。	25 頁
3	特に朝の出勤時の職員の数に応じた救援体制を決めている。	26 頁
4	車内の混乱や児童生徒の不安感を緩和するために、対策を講じたり、職員間で研修したりしている。	26 頁

Check

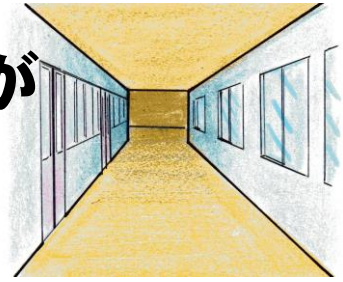
一時避難、引渡しへの対応		解説
5	長時間の乗車になる場合に備えて、必要な物品を日常的にバス車内に準備している。	27 頁
6	電話等で連絡が取れない状況になった場合の引き渡し方について、保護者や放課後等デイサービス施設等と確認ができています。	27 頁

Check

地域への協力依頼		解説
7	緊急避難場所として利用する可能性がある周辺の施設・機関に、非常時のバスの対応について理解・協力を依頼している。	28 頁

3

授業中（校内）に地震が発生した場合に備えて



チェックのポイント

授業中（校内）に地震が発生した場合の対応は、これまでも防災計画や避難訓練により備えを図ってきました。今後のポイントとしては、計画や訓練の根拠となる被災ケースについて複数の場合を想定し、対応方法を検討しておく必要があります。例えば、いつもグラウンドに避難していた計画に、津波や火災の延焼に備えて屋上や学校外の施設に避難する方法を加えるなどの対策が必要です。

Check

安全確保のための児童生徒への指導		解説
<input type="checkbox"/>	1 児童生徒は、揺れが収まるまで、どのように身の安全を図れば良いか、場所別に学習（理解）している。	29 頁
<input type="checkbox"/>	2 児童生徒は、揺れが収まってから、どのように行動（避難）すれば良いか、場所別、時間帯別、状況別に学習（理解）している。	29 頁

Check

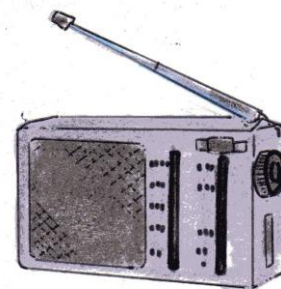
安全確保のための職員の対応		解説
<input type="checkbox"/>	3 避難開始までの注意喚起や避難指示の例文を放送機器の近くに表示している（放送機器が使えない場合も想定している）。	30 頁
<input type="checkbox"/>	4 揺れが収まるまで、また収まってから職員がすることを、場所別、時間帯別、状況別に検討し、全員で理解している。	30 頁
<input type="checkbox"/>	5 複数の避難場所、避難経路、避難方法を想定している。（津波に備えて、校内又は近隣住宅の火災発生に備えて）	31 頁
<input type="checkbox"/>	6 児童生徒の実態や居場所の状況に応じた避難方法（牽引、運搬）を検討し、必要な物（おんぶひも、ロープ 他）を用意している。	31 頁

Check

その他の事前の取組		解説
<input type="checkbox"/>	7 物の転倒、落下、破損の被害が最小限となるように、転倒防止や飛散防止の処理をしている。	31 頁
<input type="checkbox"/>	8 避難時の持ち出し品を準備するとともに、担当者が不在の場合に誰が対応するかについて職員間で確認している。	32 頁

4

校外での活動中に地震が発生した場合に備えて



チェックのポイント

校外学習や部活動の遠征などの校外学習計画を立案する際、その計画の多くは事前事後及び当日の日程や指導内容、緊急時の搬送先（病院等）等を整理したものです。

今後は、校外学習中に大きな地震が発生したときに、限られた引率職員でどのように対応するのか、検討し準備しておくことが必要です。

Check

安全確保のための児童生徒への指導		解説
1	揺れが収まるまで、現場(目的地)ではどのように身の安全を図れば良いかという指導を事前に計画し実施している。	33 頁
2	揺れが収まってから、どのように行動（避難）すれば良いか、時間帯や場所・状況の違いを想定した指導を実施している。	33 頁

Check

安全確保のための職員の対応		解説
3	児童生徒の実態や場所等の違いに応じた避難方法（牽引、運搬）を検討し、必要な物（おんぶひも、ロープ 他）を準備している。	34 頁
4	現地で被災した時に、引率職員で対応するための方法を決め、事前の引率者間の打合せで確認している。	34 頁

Check

その他の事前の取組		解説
5	地震が発生した場合に備え、校外学習計画の項目に、場所、時間帯、被災状況等を想定した対応方法を盛り込んでいる。	34 頁
6	事前の下見の観点に、現地で被災した場合の様々なリスクを確認することを盛り込み、実際の計画立案に反映させている。	35 頁
7	現地に到着してから、引率職員と児童生徒とで地震発生時（緊急時）の対処方法を確認している。	35 頁
8	校外活動時の緊急用携行品（※印参照）の内容を検討し準備している。	35 頁

※緊急用携行品の例・・・緊急連絡網、児童生徒の顔写真付カード、医薬品 等

5

寄宿舎で生活中に地震が発生した場合に備えて



チェックのポイント

寄宿舎を設置している特別支援学校の多くは、学校の防災計画とは別に、寄宿舎独自の防災計画を作成し避難訓練等を実施しています。寄宿舎の防災対策を考えると、夜間に地震が発生した場合に、少ない人数の宿直体制で、どのような対応をするかが重要です。

また、他学部の職員の協力体制も含め、計画を確認しておきましょう。

Check

安全確保のための児童生徒への指導		解説
1	舎生は、揺れが収まるまでと、揺れが収まってからどのように避難すれば良いか、状況（時間帯別、活動内容別、場所別）に応じて学習（理解）している。	36 頁

Check

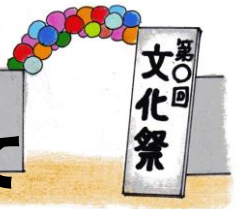
安全確保のための職員の対応		解説
2	舎生の実態や場所等の状況に応じた避難方法（誘導、牽引、運搬）を検討し、必要な物（おんぶひも、ロープ 他）を用意している。	36 頁
3	職員が4～5人の宿直体制になった時の対応方法についてリスクを想定し、可能な対策を職員間で共通理解している。	37 頁

Check

その他の事前の取組		解説
4	寄宿舎の日課（食事中、入浴中、外出許可を得て舎生が近所に買い物に出ている・・・等）のリスクを想定し対策を決めている。	37 頁
5	校内に寄宿舎の職員しかいない夜間に、地域住民が避難してきた場合の対応について検討し、防災計画に反映している。	38 頁
6	夕方以降(早朝)に地震が発生したとき、学校に残っている(出勤した)他学部の職員が、寄宿舎の避難・誘導、安全確保にどのように関わるか計画している。	38 頁

6

管理職不在時や行事開催中に地震が発生した場合に備えて



チェックのポイント

今回の東日本大震災で得られた教訓の一つに「想定外への対応」があります。想定外に備え、児童生徒も職員も“臨機応変”に対処する力を身につけておく必要がある、ということが言われています。“経験している”“知っている”といった知識や経験が“臨機応変”に対処するためには必要となります。

学校の防災計画の立案時や訓練を計画する際も、これまで想定してこなかった場面や状況をできるだけ想定し、防災の取組に活かしましょう。

Check



管理職が不在の場合		解説
1	防災計画の組織、分担、指示系統の中で、管理職が不在の場合に、どのように対応するか検討し、職員間で共通理解している。	39 頁

Check



行事開催中（公開研究会、授業参観等）の場合		解説
2	学校の防災計画や避難訓練は、公開研究会、授業参観など、外部から大勢の人が集まったときの対応も想定して計画している。	39 頁



7

帰宅困難のため宿泊が必要となった場合に備えて



チェックのポイント

交通機関の遮断、保護者が迎えに来られない、帰宅そのものが危険・・・等の状況になった場合、児童生徒と職員は宿泊を余儀なくされます。

児童生徒の障害の特性等に考慮しながら、備蓄品、宿泊方法、2日目以降の学校運営への備えなど、様々な視点から帰宅困難時に想定されるリスクへの対応を進めましょう。

Check

宿泊方法（場所、役割等）の準備		解説
1	宿泊のために必要となるスペースを準備している →本部、宿泊スペース、医療活動スペース 等	40 頁

Check

職員の勤務体制		解説
2	児童生徒や職員が宿泊をする際に必要となる仕事を分掌化し、担当者を充てれば動き出せるように準備している。	41 頁
3	宿泊が長期化し、日中も夜間も勤務する必要がある場合を想定し、二交替・三交替などの勤務割振りができるように準備している。	41 頁

Check

備蓄（食糧・衛生関係）		解説
4	児童生徒及び職員全員が 2～3 日宿泊可能な備蓄品(水、食糧、衛生用品、医薬品、電源、個人の薬等)をリストアップし、準備している。	41 頁
5	児童生徒の配慮事項（服薬・摂食・アレルギー・医療的ケアの方法等）を、緊急時に多くの職員が理解できるような方法を工夫している。	42 頁

Check

医療的ケア		解説
6	停電に備えて、病院等に搬送する段取り（病院の了解、学校からの搬送手段）を確認している。	42 頁

8

避難所等の指定に向けて市町村と協議するために



チェックのポイント

学校を福祉避難所等とするために市町村等の自治体から要請があった場合は、下記のチェック項目を参考にして、市町村との協議の際に確認事項として活用しましょう。

学校は教育活動を早期に再開し、児童生徒に「いつも通り」の生活を戻し、心の安定を図ることに努める必要があります。さらに、日中に地震が発生した場合は、学校職員は自校の児童生徒の安全確保への対応に追われ、地域住民の避難・支援に十分関われないことも想定されます。

避難所運営に関する市町村との連携（約束）については、こうした点に留意して協議を進めておく必要があります。

Check

事前に学校が把握しておくこと		解説
<input type="checkbox"/>	1 既に福祉避難所や避難場所の指定を受けている特別支援学校が自治体と取り交わした確認書等の事例について入手し確認している。	43 頁
<input type="checkbox"/>	2 過去の大震災等で避難所等になった学校（特に特別支援学校）の状況について、情報を入手し検討している。	43 頁
<input type="checkbox"/>	3 学校の収容可能な人数とスペースについて、算出している。	43 頁
<input type="checkbox"/>	4 避難所等となることについて、保護者や職員と共通理解をしている。	44 頁

Check

避難所運営に関する市町村との確認（予定を含む）		解説
<input type="checkbox"/>	5 協定書や運用マニュアルの内容・解釈について確認している。	44 頁
<input type="checkbox"/>	6 市町村が行う避難所運営に対し、学校（職員）の関わり方を確認している。	44 頁
<input type="checkbox"/>	7 避難所開設中の教育活動の実施方法について確認している。	44 頁
<input type="checkbox"/>	8 避難所閉鎖の判断基準や手続きを確認している。	45 頁
<input type="checkbox"/>	9 避難所運営・管理（セキュリティを含む）の方法について市町村と確認している。	45 頁

Check

協議の際、市町村と確認すること		解説
<input type="checkbox"/>	10 学校の使用スペース（授業のための教室、職員室、事務室 等）と避難所の使用スペースの使い分けを確認している。	—
<input type="checkbox"/>	11 医療活動やカウンセリングのためのスペースとともに、心のケア・健康保持・保育・デイケアの対策について確認している。	—
<input type="checkbox"/>	12 安否確認、掲示・情報提供、外部との連絡のためのスペースや使い方を確認している。	—
<input type="checkbox"/>	13 炊き出しや調理のためのスペースや使い方を確認している。	—
<input type="checkbox"/>	14 避難者が待機・居住するスペース、使い方、用意する物品(カーペット、間仕切り、等)について確認している。	—
<input type="checkbox"/>	15 避難生活に必要となるスペース（洗濯・物干し、入浴、トイレ、ごみ置場）と使い方と返還時の状態について確認している。	—
<input type="checkbox"/>	16 障害特性、病人、高齢者等、特別の事情に応じたスペースと使い方を確認している。	—
<input type="checkbox"/>	17 救援物資等の配給・一時保管のスペースと使い方を確認している。	—
<input type="checkbox"/>	18 遺体安置のためのスペースと使い方を確認している。	—
<input type="checkbox"/>	19 校内安全、校内移動等、避難中の緊急時のための移動・通用スペースについて確認している。	—
<input type="checkbox"/>	20 ペット飼育・糞尿処理スペースと使い方、返還時の状態について確認している。	—
<input type="checkbox"/>	21 駐車場とするスペースと使い方、返還時の状態について確認している。	—
<input type="checkbox"/>	22 生活用水と飲用水の確保について、どのように対応するか確認している。	—
<input type="checkbox"/>	23 電話不通時の連絡手段（防災行政無線、PC、伝達体制 等）の用意について、どのように対応するか確認している。	—
<input type="checkbox"/>	24 非常用トイレ（仮設、ポータブル、し尿処理の場所）について、どのように対応するか確認している。	—
<input type="checkbox"/>	25 情報入手手段（テレビ、携帯端末、電池/発電式ラジオ、無線 等）について、どのように対応するか確認している。	—
<input type="checkbox"/>	26 入浴施設、リフレッシュ対策（レクリエーション・娯楽用具、談話スペース 等）について確認している。	—
<input type="checkbox"/>	27 天候対策（冬季・夏季、雨天、強風）について、どのようにするのか確認している。	—

9

保護者と連携・協力をするために



チェックのポイント

これまでのチェックの中でも、保護者との連携・協力により実施できる項目がたくさんありましたが、災害発生時における保護者との連携・協力のポイントは二つあります。

- (1) 安否確認や引き渡し（救援を含む）のために、相互連絡に努めること。
- (2) 学校が児童生徒を安全に預かるために、事前の準備に努めること。

防災計画を立案する際に、保護者との連携・協力をどのようにすれば良いのか、明確にしておきましょう。

Check

引き渡し等		解説
<input type="checkbox"/>	1 引き渡しや一時預かりを行う判断の目安(ルール)について、全職員が共通理解しているとともに、保護者にも周知している。	46 頁
<input type="checkbox"/>	2 本人・保護者確認のためのツール(引き渡し用カード等)や、手続きのツール(引き渡し控え/記録帳)等を用意し、職員は使い方を知っている。	47 頁

Check

児童生徒の所持品		解説
<input type="checkbox"/>	3 保護者が迎えに来るまでの生活上の注意点(食事、服薬、機能維持のための行為等)について、保護者と確認している。	47 頁
<input type="checkbox"/>	4 保護者と確認した上記の内容について、緊急時には担任以外でも把握できるツールを用意している。	47 頁
<input type="checkbox"/>	5 防災ずきん、常備薬、紙おむつ、愛用品等、児童生徒が避難中に必要とするものについて確認し、予備を学校に用意してある。	47 頁
<input type="checkbox"/>	6 医療的ケアを必要とする児童生徒については、主治医との確認を含め、学校に備えておくもの(預かり品を含む)について確認している(人工呼吸器のバッテリー等)。	47 頁

Check

連絡・周知		解説
<input type="checkbox"/>	7 緊急時の複数の連絡・通信手段について、保護者と共通理解している。	48 頁
<input type="checkbox"/>	8 災害発生時の学校の対応について、保護者に充分周知している。	48 頁

10

地域と連携・協力を するために



チェックのポイント

地域との連携・協力を深めていくためには、学校が地域の中で“知られている”“関心を持たれている”ということが不可欠です。そのためには、防災の取組についての連携を図る際は、学校と地域が普段から親しくなる工夫を考えておくことが有効です。

以下のチェック項目をもとに、必要な取組については、防災計画だけでなく、学校経営そのものに反映していく必要があります。

Check

学校の特性の周知		解説
<input type="checkbox"/>	1 学校が教育対象としている障害種の特徴について、具体的に地域住民に理解してもらうための広報活動をしている。	49 頁
<input type="checkbox"/>	2 学校が行っている防災活動の内容や特徴を、地域住民に理解してもらったり、関心をもってもらったりするための取組をしている。	49 頁
<input type="checkbox"/>	3 学校の防災計画や緊急時の対応方針・方法について、必要に応じて地域住民に説明している。	49 頁

Check

災害発生時の対応の確認		解説
<input type="checkbox"/>	4 地域と学校が、それぞれの防災の取組について理解し合う機会を設けている。	50 頁
<input type="checkbox"/>	5 避難所等の指定はされていないが、地域の住民が避難しなければならない状況を想定して、地元自治体と確認している。	50 頁
<input type="checkbox"/>	6 災害発生時に学校が対応できること、対応できないことについて、地元自治体や地域住民と確認している。	50 頁

Check

病院や関係機関との確認		解説
<input type="checkbox"/>	7 医療的ケアや配慮の必要な疾患のある児童生徒への支援協力について、関係機関や近隣の病院と確認している。	51 頁
<input type="checkbox"/>	8 地域の防災機能、防災資源について把握し、相互に利用し合うことについて関係者と確認している。	51 頁

11

防災計画を作成するために (見直しをするために)



チェックのポイント

地震発生に備えた学校の防災計画は、防ぐことのできない天変地異への可能な限りの備えということになります。したがって、大地震が発生した後、どうすれば被害を小さくすることができるか、どうすれば臨機応変な対応ができるかが計画作成のポイントです。

その点に着目して、自校の計画等を見直しましょう。

Check

	計画の内容	解説
<input type="checkbox"/>	1 防災計画に示した「計画」が“願い・希望”や“抱負”ではなく、具体的な行動を示した計画になっている。	52 頁
<input type="checkbox"/>	2 避難訓練の実施計画だけでなく、学校教育活動の様々な場面において考えられるリスクを踏まえて、防災の取組について計画されている。	52 頁
<input type="checkbox"/>	3 職員が理解しやすいように図等を多用し、具体的な行動が想起できる分かりやすい文章になっている。	52 頁

Check

	組織（役割分担）	解説
<input type="checkbox"/>	4 組織上の担当者が不在の場合でも、代替が可能となるような対策を取っている（例えば対応方法をカード化して場所毎につるす等）。	53 頁
<input type="checkbox"/>	5 職員の参集計画を作成し、職員は自分の参集方法を理解している。	53 頁

Check

	組織の活用	解説
<input type="checkbox"/>	6 防災組織が有事のためだけでなく、日常の取組(分掌等)に反映されるようなシステムになっている。	54 頁
<input type="checkbox"/>	7 学校の防災計画や避難訓練は、真夏の猛暑時、真冬の厳寒期、風雨の中などの気候条件の違いから必要になることを想定し計画している。	54 頁
<input type="checkbox"/>	8 学校の防災計画や避難訓練は、地域が抱える被災のリスクを考慮した計画になっている。	55 頁

12

学校の防災に関する 取組の充実のために



チェックのポイント

児童生徒の命と安全を守るためには、学校職員が学校の防災機能を熟知していることが必要です。地震により火災が発生したとき、近くにいた職員が、消火器の使い方が分からない、防火シャッターの動かし方が分からない・・・という状況では責任を果たせません。

特別支援学校は職員数が多いため、役割分担が細くなり、ややもすると自分以外の役割について何をすればいいのかわからないという状況が懸念されます。

学校の組織としての視点と、職員の専門性という視点の両面からの準備を考え、学校の防災に関する取組の充実を図りましょう。

Check

安全点検・安全対策		解説
<input type="checkbox"/>	1 安全点検で確認する箇所／観点が明確になっている。また、点検方法も明確になっている(目視、打音、負荷をかける、作動等)。	56 頁
<input type="checkbox"/>	2 点検で不具合が発見された場合、すぐ行う対処方法について取り決めがある(予算があれば修理、無ければ使用/立入り禁止等)。	56 頁
<input type="checkbox"/>	3 校内のガラス窓に飛散防止フィルム貼り付けの処置が済んでいる。(最低限、避難経路となる場所)	57 頁
<input type="checkbox"/>	4 落下・転倒防止の処置ができています。(処置ができない場所には、処置のできないものを置かない)	57 頁
<input type="checkbox"/>	5 消火器、防火用砂、防火用水の位置は、全ての職員が理解している。	57 頁
<input type="checkbox"/>	6 職員は非常時に備え、機能的な衣服・靴の着用に努めている。	58 頁

Check

職員の研修・スキルアップ		解説
<input type="checkbox"/>	7 消火器、AED の操作、心肺蘇生法等について職員は習熟している。	58 頁
<input type="checkbox"/>	8 緊急放送システム、非常ベル(消火栓)、防火扉(シャッター)の操作について職員は習熟している	58 頁
<input type="checkbox"/>	9 担当(役割)以外の職員でも対応が可能となるよう、とっさのマニュアルが壁に掲示されていたり添えられたりしている。	58 頁

Check

	障害の特性への対応	解説
<input type="checkbox"/>	10 視覚障害者が安全かつ迅速に避難ができるよう、効果的に誘導するための準備をしている（誘導テープ、鈴の携帯、誘導用メガネ等）。	60 頁
<input type="checkbox"/>	11 色や形の識別が困難な弱視者（色覚異常を含めて）を想定して、誰でも区別しやすい案内板や表示を作成する準備ができています。	60 頁
<input type="checkbox"/>	12 視覚障害者が避難生活を送れるように、音声ガイドとして使うためのラジカセ（乾電池）を用意している。	60 頁
<input type="checkbox"/>	13 聴覚障害者に情報が確実に伝わるように、ミニ黒板、張り紙等の用意をしている。また、防災計画の中でその対応をルール化している。	60 頁
<input type="checkbox"/>	14 肢体不自由者の避難・移動に役立つおんぶひもや固定用テープ等を準備している。	60 頁
<input type="checkbox"/>	15 日常的に服用している薬等について、避難の時にすぐ持ち出せる工夫をしている。	—
<input type="checkbox"/>	16 「中央階段」とか「2階図書室脇非常口…」といった職員にしかわからない名称ではなく、児童生徒にもわかりやすい名称と表示をしている。	—
<input type="checkbox"/>	17 帰宅困難のため宿泊するような場合でも、見通しがもてるように、予定をわかりやすく書きこむための道具を用意している。	—
<input type="checkbox"/>	18 落ち着ける環境（場所）を確保している。あるいはカーテンやダンボールで同様の環境が作れるようにしている。	—
<input type="checkbox"/>	19 気持ちを落ち着かせるのに有効な学習アイテムを用意している。 音楽 CD とラジカセ、トランプ、編み物、機織り、ブロック・・・ （基本的に、日頃取組んでいた作業用具などがあるとうい）	—
<input type="checkbox"/>	20 揺れが収まってから急いで避難するとき、車椅子とともに人工呼吸器のバッテリーや吸入器具などを一式持ち運べるようにしている。	—
<input type="checkbox"/>	21 流動食や栄養剤など、嚥下が難しい児童生徒用の非常食を数日分用意している。	—
<input type="checkbox"/>	22 避難所を開設したとき、避難している住民や、ボランティアとして救援にあたっている人たちに、障害のある人たちの特性や困難性をわかりやすく伝える工夫（マニュアルの配付等の用意）をしている。	—

13

津波に対する備えのために



チェックのポイント

津波に対する備えをするためには、地域との連携・協力が欠かせません。津波警報・注意報が発令された際の市町村情報の受信の仕方、地域の小・中学校等との連絡・連携体制の整備は、事前に確認しマニュアルを作成するなどしておく必要があります。

以下のチェック項目をもとに、必要な取組については、防災計画だけでなく、学校経営の計画そのものに反映していく必要があります。

Check

津波警報・注意報が発令された際の情報の受信及び連携		解説
<input type="checkbox"/>	1 学校の所在地の市町村の防災無線等の受信のための整備をしている。	59 頁
<input type="checkbox"/>	2 児童生徒等の通学区域内にある市町村の防災情報を確認するために県の「防災情報システム」等の活用をするなど体制を整えている。	59 頁
<input type="checkbox"/>	3 学校の所在する市町村にある小・中学校等と、警報・注意報発令の際の学校運営についての連絡体制を整えている。	59 頁
<input type="checkbox"/>	4 学校の所在する市町村にある小・中学校等と合同で津波対策の避難訓練や避難場所の確認をしている。	59 頁

Check

家庭との連絡体制		解説
<input type="checkbox"/>	5 登校前の学校運営状況変更（臨時休業・日課変更等）の連絡方法を「防災マニュアル」に定めている。	59 頁
<input type="checkbox"/>	6 児童生徒等が学校管理下（下校時の保護者引き渡しまで）にある場合の連絡方法、引き渡し方法を個別に確認してある。	59 頁
<input type="checkbox"/>	7 学校管理下から保護者引き渡ししが夜間あるいは、宿泊が想定される場合の非常食や簡易宿泊用品を備えてある。	59 頁

Check

学校の体制の確認		解説
<input type="checkbox"/>	8 学校管理下で、津波の発生及び警報・注意報が発令された際の避難場所が確保されている。	59 頁
<input type="checkbox"/>	9 スクールバスの運行コースについて津波を回避することができるよう検討をしている。	59 頁